

## ○ 総合司会者あいさつ（阿部美哉放送教育開発センター教授）

おはようございます。本日は、ずいぶん朝早くからこの遠方までお越しくださいまして、まことにありがとうございます。

大学放送教育研究シンポジウムも第7回目を迎えまして、今回は三つのテーマを取り上げて討議を進めていきたいと考えております。

一つは、深谷教授を中心といたします、放送大学の番組のあり方の検討の部門でございまして、試作教材をつくっていただき、その試作をいろいろモニターに実験をし、その反応等をとった、それをもとにしての討議を行うわけでございます。この部分につきましては、皆様方のお手元にお配りいたしました資料にアンケートがございます。実はこのアンケートを、この会場でも皆様方に書いていただこうということを考えております。

なぜそういうことを考えておりますかと申しますと、数年前に私ども実施いたしました、宗教学の番組を使いまして、六つのタイプでその反応をとって見たことがございました。会場で先生方からお答えいただいたものと、それから、若い学生諸君等の答えを見た場合、世代差というのが非常に明らかにあらわれてきたという非常に興味深い例がございましたので、この際もまた先生方のお手を煩わせまして、この学校行事に関するアンケート調査は、ただ学生諸君等のモニターのアンケートだけでなく、先生方の反応とまた比べさせていただきたいというような意図を持っております。

それから、今日の午後はメディア・ミックスという課題をとらえまして、その方面の小学校等での実験を踏まえた討議をやっていただく予定でございます。

三つ目の部門は明日行いますが、これは番組の映像のタクソノミーという課題でございます。

それから、正規のプログラム以外でございしますが、三つ目の討議が済みした後で、ご関心の方には、別の追加のプログラムを用意いたしました。

最近アメリカでエレクトロニック・ユニバーシティー，要するにコンピューター通信による大学教育というものが伸展しておりますが，その方面の実際に実施しておられる方が，お客さんとしてみえておられますので，明日の会合がすみました直後，そのお客様を迎えまして追加の議論をいたします。これは正規のプログラムではございませんので，ご関心のおありの方にはひとつ頭に入れておいていただきたいと思います。

それではまず開会に当たりまして，放送教育開発センター所長の天城勲からごあいさつを申し上げます。